

## 「インターシップについて」

昭49年卒 経済 浅井 隆司

コロナ禍において就職活動も大きく変化しました。特に志望企業を決めるにあたり企業研究に重要であった就職情報誌や大学構内で行われる各企業がブースを作り学生に企業説明をする対面の合同説明会が中止になったり、規模が縮小したことによります。その代わりに増えているのがWEB等を活用したインターシップです。就職情報誌によると2021年度インターシップ実施企業は66%と前年度より5%増加していますし、参加する学生も2017年度は55%だったのが2022年度は79%になっています。インターシップはもともと企業がより多くの学生にその企業の内容や魅力を知ってもらい、企業の求める優秀な学生を採用する目的で始まったものです。学生にとっても単に会社のパンフレットやホームページ等で得た情報以外に企業の人から直接話を聞くことができ、雰囲気や企業風土等も把握ことができます。また企業にとっても採用時に短時間の面接で採用の可否を決めるよりも、インターシップに参加する学生と接することによりその企業の求める能力や適性を把握することができます。現状一般に言われている新規大学卒業者の離職率は3年で約3割と言われています。（神戸大学卒業生の場合それほど離職率は高くないと思います）インターシップ活用が増えてくるとこうした採用におけるアンマッチは減少していくでしょう。またある大企業に確認したところ昨年度の採用内定者のうち約7割がその企業のインターシップ参加者であるという事でした。このようにインターシップ参加者のその企業への内定率は確実に上がっていく傾向にあります。

インターシップの内容は「企業理念」、「仕事の内容」、「企業の将来の方向性」等の説明に加え職業体験の一環としてグループごとにタスクが与えられ成果を求める「グループワークがあります」。また最近グループにあるテーマを与え、皆で議論しコンセンサスを得、グループとしての結論を出す「グループディスカッション（G/D）」を実施する企業が増えてきています。G/Dについてはあまり経験したことがない人もあるかとは思いますが、実は鶴甲第2キャンパスにある「鶴2キャリアサポートセンター」で練習会を定期的実施しています。そこには私も六甲台就職相談センターの相談員もアドバイザーとして参加し、全体の総評や個々人の「良かった点」、「改善すべき点」があればフィードバックし好評を得ています。詳しくは「鶴2キャリアサポートセンター」ホームページの予定欄に掲載されていますし、G/D練習会の開催が決まれば私もセ

ンターの掲示板にポスターを掲示しパンフレットを置いていますので積極的な参加を薦めます。

このようなインターンシップですが、やはり人気のある企業は参加の応募者が多く、企業もキャパシティの関係で参加予定者を審査し絞らざるを得なくなっています。審査方法は一般的に参加のエントリーシート（E/S）を提出させます。主な内容は「自己PR」、「学生時代に力を入れて取り組んだこと（学チカ）」、「参加志望動機」、「インターンシップで学びたいこと」等です。またそれ以上に参加者を絞り込むためにWEBによる面接を実施している企業もあります。私ども六甲台就職相談センターではそれに対応してインターンシップ全般の相談やE/Sの内容のチェック及び模擬面接等をしています。現在コロナ禍においてZOOMによる相談（予約が必要）、感染対策をして対面による相談（予約の必要なし）をしていますので遠慮なく来訪して欲しいと思います。

学生の皆さんも学業、クラブ活動、アルバイト等忙しくしている人もあろうかとは思いますが、ある意味では人生の選択の一つである就職活動ですし、最近では1日だけのワンディインターンシップも増えていますので企業研究のために後で悔いのないよう志望企業や興味のある企業のインターンシップに参加して欲しいと思います。私たち相談員一同はそういった学生の皆さんの就職活動の後押しをするべく対応している次第です。

以上